

プロジェクトコーナー

ヘルスポストを

保健ボランティアに託して

－ ‘06 年度モロの村の地域医療推進事業完了 －

昨年4月、男児対象 Tuli(割礼)から始まった「保健ボランティア育成によるモロの村の医療改善事業」(今井記念海外協力基金助成事業)は、先月 3 月末にすべてのスケジュールを終了しました。

PIHS 責任者ナプサさんからの 2-3 月活動報告には、一連の保健ボランティア育成事業の集大成ともいえる常備薬センター(Health Post)について、配備したハーブ薬のほか医薬・医療備品管理全般を、村の保健ボランティアチームに託す手続きが終了したとありました。今回センターが設置されたのはシギル、ティナガカン、キアンバ 3 村です。

同時に「妊娠・出産に関する勉強会」の写真も届きました。2 月開催のシギル村緑陰セミナーで、PIHS スタッフのハリマさんが、太い幹に貼った図を使い、女性の体の仕組みを説明しているシーンです。父親も何人か参加したそうです。



前号 P4 の報告のように、2006 年度の事業では、ハーブ薬製造で大きな成果を挙げました。これを量的・地域的に拡大して、常備薬センターを増設し、また Tuli のような局部麻酔、切開、縫合からなる初級外科処置技術をより多くの保健ボランティアが習得できるよう、本年度も今井記念海外協力基金をいただいて、PIHS との協働事業を継続することが決まりました。

新規に含めたプロジェクトは、写真の緑陰セミナーのような、男性も対象にした家族計画セミナーです。家族計画はイスラム教の教義にも関わること、医療を超えた分野をも含みますが、イスラム指導者の協力も得て実施する予定です。

夏休み中の現地では、各地で男児対象の Tuli 実施中です。次号でご報告させていただきます。

12,000 本の苗木を植えました

－ イオン環境財団助成事業完了 －

ラワンなど原生種の苗木 8,000 本(水源涵養林用)と、数年後から収穫できる果樹苗、ココやし、コーヒー等 4,000 本が、パグナイ村の計 30 ヘクタールに植えられました。土留め灌木フラミンジャも順調に伸びて、間作のピーナッツはすでに 2 回収穫しました。

助成を受けた 3 年間で、アグロフォレストリ実施面積は 85 ヘクタールに達しました。数年後には、果樹や灌木からなる等高線状の緑の縞模様が見られるはず。住民も果樹の実りで子どもを学校に通わせられるようにと手入れに励んでいます。



トラック 3 便分の苗は、車が入れない山腹へは、人力や馬で運ぶ(ココやし苗を運ぶ女性たち)

※ 本事業は、PFP がイオン財団から直接助成を受け、HANDS は連絡窓口として協力しました ※

フハガン・フロコン村で果樹苗を植えませんか

パグナイと同じスルタンクダラト州の二つの村でも、雨季が始まる5月中旬から原生種と果樹苗の植えつけ作業が始まります。

HANDS スタッフも6月初めに、この「緑の募金交付金事業」モニターを兼ねて植林作業に参加します。一緒に植林体験を希望される方を募集しています。詳細は P6をご覧ください。

定期支援 と プロジェクト

山腹で作るコーンや根菜で何とか飢えは凌げる山の先住民族。困るのは現金が必要な医療と教育です。これらは継続的に必要な支援(定期支援)として支援会費を充当させていただいています。

一方、問題の根源にある貧困や森林破壊対策としてのアグロフォレストリ実施や、病気予防に効果のある簡易水道建設や保健ボランティア育成事業は、期間、目標を定めたプロジェクトとして実施しています。財源は主に財団などの助成金に求めています。

本年度実施(予定)の主なプロジェクト

- ①ブラクール教科書実習教材整備
- ②モロの村医療技能研修・ハーブ薬製造
- ③クハン村アグロフォレストリ
- ④フィタク・スフォ村簡易水道建設